

2026年 2月4日(水) — 3月22日(日)

会場 京都国立博物館 平成知新館(1F・4・5)

特集展示

縁えにしを結ぶ

かたな

— 国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞 —

Feature Exhibition

FORGING BONDS
THROUGH BLADES

LEARNING SWORD APPRECIATION
THROUGH NATIONAL TREASURES AND
IMPORTANT CULTURAL PROPERTIES

February 4 – March 22, 2026

重要文化財
太刀銘波平行安(号篋貫)
京都国立博物館

〈次回の展覧会〉
特別展「北野天神」 2026年4月18日(土)～6月14日(日)

主催：京都国立博物館、北野天神宮、読売新聞社 特別協力：全国天満宮振興会
北野天神宮の「太刀・国綱」銘ガアル鬼切丸鹿切(二重文と太刀・銘「忠海・藤丸」二重文、大冠等)を展示！

開館時間 午前9時30分～午後5時 *金曜日は午後8時まで開館 *入館は各閉館30分前まで

休館日 月曜日(ただし、2026年2月23日(月祝)は開館し、2月24日(火)は休館)

観覧料 一般700円、大学生350円 *高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料。*障害者の方とその介護者1名は無料となります。*障害者手帳などを提示ください。
*キャンパスパス(教職員を含む)は学生証または教職員証を提示いただく、無料となります。*上記観覧料にて、当日の名品ゼラリー(平常展示をすべてご覧いただけます。

【アクセス】

JR近鉄 京都駅下車、駅前市バスD2のりばから206・208号系統にて博物館三十三間堂下車、徒歩すぐ。/ 京阪電車 七条駅下車、東へ徒歩7分。
市バス 博物館三十三間堂下車、徒歩すぐ。または東山七条下車、徒歩3分。*こ来館はなるべく公共交通機関をご利用ください。駐車場は有料となっております。

 京都国立博物館 東山七条
KYOTO NATIONAL MUSEUM

京都市東山区茶屋町527 お問合せ 075-525-2473 (レホンサービス)

<https://www.kyohaku.go.jp/>



縁を結ぶかたな

— 国宝・重要文化財で学ぶ刀剣鑑賞 —

2026年2月4日(水) — 3月22日(日)

会場 京都国立博物館 平成知新館(1F・4・5)

文化財や美術品との出会いには様々な入口があります。この展示では、京都国立博物館の収蔵する国宝・重要文化財の名品を通して、普段の生活では身近に感じることのできない「刀剣」分野の隠された見どころを「形」「銘」「刃文」「刀身彫刻」の四つのテーマに沿って紹介します。

形

日本刀の形状は片刃で反りがあるという基本構造に共通性を持ちつつ、製作された時代によって各部のバランスに変化が生じます。使用目的や文化的背景、戦闘環境や使用者の変化に影響を受ける日本刀の姿を見てみましょう。



重要文化財 薙刀 銘是介 附鉄鍔

銘

日本刀の文化財としての名称は独特です。厳密に形だけで名前をつけると「けん」「たち」「かたな」「やり」「なきなた」となり、個体識別ができなくなってしまう。このような混乱を防ぐため、日本刀の名称には茎に刻まれた文字情報(銘)を併記します。銘文の内容も様々で、製作者の名前のものもあれば、居住地や製作年月日まで記したものの、後世の鑑定の結果が刻まれていることもあります。



重要文化財 刀 金象嵌銘本多美濃守所持／義弘本阿(花押)(名物桑名江) 京都国立博物館

刃文

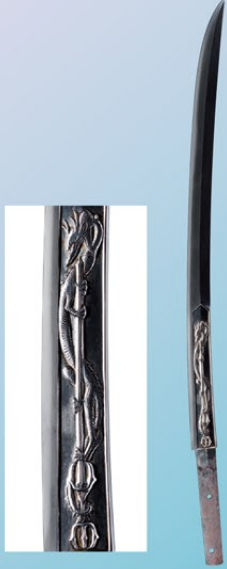
刀剣に武器や道具としての硬度や柔軟性を持たせるための処理が焼入です。焼入による金属組織の変化の副産物として生まれる文様を刃文といいます。刃文には様々な形があり、作者や流派を判断する要素のひとつとして刀剣を鑑賞する際の見どころとなりました。



重要文化財 太刀 銘雲生 京都国立博物館

刀身彫刻

刀身に彫刻を施す行為の起源は古く、我が国では鉄製刀剣が盛んに用いられたはじめた古墳時代から作例があります。文字情報の記録媒体としての刀身彫刻もあれば製作者の信仰心が込められたもの、実用性を高めるため重量の軽減を目的としたものなど様々です。後にこの刀身彫刻そのものを売りとした工人もあらわれます。



重要文化財 薙刀直シ刀 無銘(名物骨喰藤四郎) 京都・豊国神社

「展示作品一覧」

*重文：重要文化財

- ◆重文 黒漆剣 京都 鞍馬寺
- ◆国宝 剣無銘 大阪 天野山金剛寺
- ◆国宝 太刀 銘安家 京都国立博物館
- ◆国宝 太刀 銘正恒 文化庁
- ◆重文 太刀 銘波平安(号笹貫) 京都国立博物館
- ◆重文 刀 銘長曾堀里入道唐徹
- ◆重文 薙刀 銘是介 附鉄鍔
- ◆重文 太刀 銘備前国長船住義景 京都国立博物館
- ◆重文 松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘利恒 京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘備中以下切 京都国立博物館
- ◆重文 松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館
- ◆重文 刀 額銘来国光／切付銘埋忠磨上之 京都国立博物館
- ◆重文 刀 折返銘備前助村 京都国立博物館
- ◆重文 刀 金象嵌銘本多美濃守所持／義弘本阿(花押)(名物桑名江) 京都国立博物館
- ◆重文 刀 金象嵌銘 永禄三年五月十九日 義元討捕刻彼所持刀／織田尾張守信長(名物義元左文字) 京都・建礼神社
- ◆国宝 太刀 銘則国 京都国立博物館
- ◆重文 短刀 銘長谷部国重 京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘備前国則宗(名物二ツ銘則宗) 京都・愛宕神社
- ◆刀銘吉行 坂本龍馬所用 坂本彌太郎氏寄贈・京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘近房 京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘長光 京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘備前国長船住人真光 京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘雲生 京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘備前国住雲次／建武乙亥二年十一月 京都国立博物館
- ◆重文 短刀 銘吉光(名物秋田藤四郎) 京都国立博物館
- ◆重文 永藤一氏旧蔵・京都国立博物館
- ◆重文 薙刀直シ刀 無銘(名物骨喰藤四郎) 京都・豊国神社
- ◆重文 太刀 銘国吉 京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘豊後国行平作 京都・八坂神社
- ◆重文 短刀 無銘 京都国立博物館
- ◆重文 刀 銘山城国西陣住人理忠明寿(花押)／慶長三年八月日他江不可渡之 京都国立博物館
- ◆重文 太刀 銘栗田口一竿子忠綱影同作／宝永六年八月吉 伊藤勉氏寄贈・京都国立博物館